

引用文献

- 新井香奈子, 坂下玲子, 上手道子, 岩崎小百合, 物部弘子, 岸本啓子, 藤田頼子, 衣笠端子
(2012). 口腔機能向上を促す支援プログラムによる高齢者の口腔保健行動の変化. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要. 19, 69-81.
- Bartosch P, McGuigan FE, Akesson KE. (2018) . Progression of frailty and prevalence of osteoporosis in a community cohort of older women-a 10-year longitudinal study. Osteoporos Int. 29(10), 2191-2199.
- Dedeyne L, Dewinter L, Lovik A, Verschueren S, Tournoy J, Gielen E. (2018) . Nutritional and physical exercise programs for older people: program format preferences and (dis)incentives to participate. Clin Interv Aging. 13, 1259-1266.
- 源由里子 (2008) 参加型評価：改善と変革のための評価の実践. 世界思想社, 95-112.
- 藤本涼太, 中村美砂. (2017) . 高齢者の抑うつ傾向とロコモティブシンドロームとの関係について. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要. 11. 177-184.
- 藤野圭司. (2010) . 要介護者に対するロコモーショントレーニング（ロコトレ）の効果. Modern Physician. 30, 817-819.
- 幡野真妃, 都築千恵子, 渋谷明, 千坂こずえ, 天野早紀, 野依美穂, 山野佳子, 酒井奈々子, 山田晴生. (2017) . ロコモティブシンドローム予防教室の取り組みトレーニングの定着を目指して. 日本農村医学会雑誌. 65 (5) , 984-993.
- 畑野相子, 北村隆子, 安田千寿, 山本眞喜. (2012). スリーa 教室における脳刺激訓練プログラムの効果の検討. 人間看護学研究. (10), 85-94.
- 橋本万里, 安村誠司, 中野匡子, 木村みどり, 中村耕三, 藤野圭司, 伊藤博元. (2012) . 訪問型介護事業としてのロコモーショントレーニングの実行可能性. 日老医誌, 494.
- 林真二, 百田武司. (2018). 閉じこもり高齢者への訪問型介護予防複合プログラムによる介入効果の検討. 老年看護学. 22(2), 88-96.
- 堀田陽平, 谷内香織, 中村英史, 霜下和也, 後藤伸介. (2018). 介護予防事業における基準緩和型通所サービスの取り組みと効果. 石川県理学療法学雑誌. 18(1), 21-28.
- 井口睦仁, 星川秀利. (2018). 短期間の介護予防教室と教室後の運動継続が身体機能と生活の質に及ぼす影響. 常葉大学健康プロデュース学部雑誌. 12(1), 95-100.

- 石橋英明, 藤田博暁. (2011). 閉経後女性におけるロコモーショントレーニング (片脚立ちおよびスクワット) による運動機能改善効果の検討. *Osteoporosis Jpn.* 19, 391-397.
- 伊藤桜子, 小口江美子, 市村菜奈, 稲垣貴恵, 村山舞. (2019). 音楽運動療法プログラムの心身への効果 高齢者の運動継続と楽しさの関連性. *昭和学士会雑誌*. 79(1), 11-27.
- Juan José Hernández Morante, Carmelo Gómez Martínez, Juana María Morillas-Ruiz. (2019). Dietary Factors Associated with Frailty in Old Adults: A Review of Nutritional Interventions to Prevent Frailty Development. *Nutrients*. 11 (1) ,102.
- 加藤智香子, 猪田邦雄. (2013). 春日井市一次予防事業運動器機能向上プログラム「はつらつ運動セミナー」「ふれあいデイサービス」の参加者特性の検討・効果判定. *中部大学生命健康科学研究所紀要*. 9, 19-24.
- 加藤智香子, 藤田玲美, 猪田邦雄. (2014). 運動器機能向上プログラムにおける一次予防事業・二次予防事業の参加者及び効果の比較. *生命健康科学研究所紀要*. 10, 32-38.
- 加藤 智香子, 藤田 玲美, 猪田 邦雄. (2015). 一次・二次予防・介護予防通所リハにおける運動器機能向上プログラム介入効果の比較. *中部大学生命健康科学研究所紀要*. 12. 26-31.
- 川又寛徳, 山田孝, 小林法一. (2012). 健康高齢者に対する予防的・健康増進作業療法プログラムの効果 ランダム化比較試験. *日本公衆衛生雑誌*. 59(2), 73-81.
- 川又寛徳, 山田孝, 小林法一. (2014). 健康高齢者に対する人間作業モデルに基づく予防的・健康増進作業療法プログラムの効果 プログラム終了6ヵ月後の状況. *作業行動研究*. 18(3), 120-126.
- 川又寛徳, 五百川和明, 三橋佑平, 北爪しのぶ, 三浦里織, 堀越裕子. (2020). 多職種連携による認知症予防を目的とした健康教室の実践. *作業療法ジャーナル*. 54 (3) . 295-299.
- 川畑輝子, 武見ゆかり, 村山 洋史, 西 真理子, 清水 由美子, 成田 美紀, 金 美芝, 新開 省二. (2015). 地域在住高齢者に対する虚弱予防教室による虚弱および食習慣の改善効果. *日本公衆衛生雑誌*. 62(4), 169-181.

- 河村敦子, 篠木 由樹, 田村ひかり, 堀田真帆, 米村礼子, 堤雅恵. (2020). 高齢者の口腔機能の実態調査と摂食機能の健康管理に関する意識の変化. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌. 24 (1). 26-37.
- 菊池有紀, 葉袋淳子. (2019). 在宅高齢者の地域力を活かした介護予防プログラムの試み. 日本看護科学会誌. 39, 54-58.
- 北村明彦, 清野諭, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 西真理子, 野藤悠, 成田美紀, 池内朋子, 阿部巧, 藤原佳典, 新開省二. (2020). 高齢者の自立喪失に及ぼす生活習慣病、機能的健康の関連因子の影響. 草津町研究. 日本公衆衛生雑誌. 67 (2), 593-605.
- 小西めぐみ, 下園美保子. (2019). 閉じこもり高齢者の地域との繋がりへの再構築を目指す効果的プログラムに関する文献検討. 愛知県立大学看護学部紀要. 25.127-134.
- 厚生労働省. (2006). 地域保健における行政主体としての 市町村の役割の明確化について. <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/09/dl/s0907-2c.pdf>
- 厚生労働省. (2008). 健康増進法第 17 条第 1 項及び第 19 条の 2 に基づく健康増進事業について. https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tb5161&dataType=1&pageNo=1
- 厚生労働省. (2012). 健康日本 2 1 (第 2 次) の推進に関する参考資料. https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/kenkounippon21_02.pdf
- 厚生労働省. (2019a). 一般介護予防事業等について. <https://www.mhlw.go.jp/content/12601000/000512177.pdf>
- 厚生労働省. (2019b). 令和元年簡易生命表の概況. <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life19/dl/life19-15.pdf>
- 厚生労働省. (2019 c). 2040 年を展望した社会保障・働き方改革本部のとりまとめについて. <https://www.mhlw.go.jp/content/12601000/000520865.pdf>
- 厚生労働省. (2020). 高齢社会白書. https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/zenbun/pdf/1s2s_02.pdf
- 厚生労働省. 高齢者の雇用. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/jigyounushi/page09.html

厚生労働省. 高齢者を対象とした運動プログラム. <https://www.mhlw.go.jp/content/000656460.pdf>

厚生労働省. 健康日本 21 (総論). https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/s0.html

厚生労働省. 健康日本 21 (総論) 総論参考資料. https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/s1.html

厚生労働省. サルコペニア. <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/exercise/ys-087.html>

Mónica Machón, Maider Mateo-Abad, Kalliopi Vrotsou, Xabier Zupiria, Carolina Güell, Leonor Rico, Itziar Vergara (2018). Dietary Patterns and Their Relationship with Frailty in Functionally Independent Older Adults. *Nutrients*. 10(4),406.

三角洋美. (2010). 生活機能低下の防止を目指した通所リハビリテーションにおける口腔機能向上プログラムについて. *日本歯科衛生学会雑誌*. 4(2), 90-96.

森下志穂(愛知県歯科衛生士会), 渡邊裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 小原由紀, 白部麻樹, 後藤百合, 柴田雅子, 長尾志保, 三角洋美. (2017). 通所介護事業所利用者に対する口腔機能向上および栄養改善の複合サービスの長期介入効果. *日本歯科衛生学会雑誌*. 12(1), 36-46.

村田 伸, 大山 美智江, 大田尾 浩, 村田 潤, 木村 裕子, 豊田 謙二, 津田 彰 (2009). 在宅高齢者の運動習慣と身体・認知・心理機能との関連. *行動医学研究*. 15 (1) . 1-9.

村山明彦, 山口智晴, 宮寺亮輔, 柴ひとみ, 田口敦彦. (2019). 『心・身・脳』維持向上プロジェクトの活動報告 大学・社会福祉協議会・参加者として作る新しい介護予防プログラム. *理学療法群馬*. (30), 39-42.

内閣府. (2017). 高齢者の健康に関する調査結果 (概要版). <https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h29/gaiyo/index.html>

中村満. (2012). 介護予防としての運動プログラム・トレーニングとそれに併用する円皮鍼施鍼の包括的 QOL に及ぼす影響について. *日本温泉気候物理医学会雑誌*. 75(2), 95-111.

中尾陸宏, 坂野雄二. (2013). 健康増進と行動医学. 第 19 回日本行動医学会総会シンポジウム. 19 (2) . 50-51.

日本整形外科学会. ロコモティブシンドロームとは. <https://www.joa.or.jp/media/locomo/index.html>

日本老年医学会. フレイルに関する日本老年医学会からのステートメント. https://jpn-geriat-soc.or.jp/info/topics/pdf/20140513_01_01.pdf

日本理学療法士協会. (2015). 介護予防や地域包括ケアの推進に対する国民の意識調査研究事業調査報告書. 1-87.

http://www.japanpt.or.jp/upload/japanpt/obj/files/chosa/1502_report.pdf

日本整形外科学会公式. ロコトレ. ロコモティブシンドローム予防啓発公式サイト. <http://locomo-joa.jp/check/locotre/>

野藤悠, 清野諭, 村山洋史, 吉田由佳, 谷垣知美, 横山友里, 成田美紀, 西真理子, 中村正和, 北村明彦, 新開省二. (2019). 兵庫県養父市におけるシルバー人材センターを機軸としたフレイル予防施策のプロセス評価およびアウトカム評価. 日本公衆衛生雑誌. 66 (9) , 560-573.

野田さおり, 永井由美子. (2020). 高齢者の属性とロコモティブシンドロームに関する研究. 大阪教育大学紀要(人文社会科学・自然科学). 68, 51-60.

サブレ森田さゆり, 伊藤直樹, 木下かほり, 小嶋紀子, 荒井有紀, 道田愛美, 山口純世, 高道香織, 溝神由美子, 川嶋修司, 谷川隆久, 徳田治彦. (2019). 高齢糖尿病患者に対するフレイル予防介入プログラムの評価についての検討: 糖尿病教室を用いた多職種連携による介入. 医療. 73 (1) , 12-19.

桜井良太, 藤原佳典, 金憲経, 齋藤京子, 安永正史, 野中久美子, 小林和成, 小川貴志子, 吉田裕人, 田中千晶, 内田勇人, 鈴木克彦, 渡辺修一郎, 新開省二. (2011). 温泉施設を用いた複合的介入プログラムの有効性に関する研究 無作為化比較試験による検討. 日本老年医学会雑誌. 48(4), 352-360.

Sánchez-García S, García-Peña C, Salvà A, Sánchez-Arenas R, Granados-García V, Cuadros-Moreno J, Velázquez-Olmedo LB, Cárdenas-Bahena Á. (2017). Frailty in community-dwelling older adults: association with adverse outcomes. Clin Interv Aging. 12, 1003-1011.

- 笹野弘美, 平野孝行, 森田良文, 佐藤徳孝. (2018). フラダンスの運動効果の検証と介護予防プログラムとしての有効性の検討(第 1 報). 名古屋学院大学論集(医学・健康科学・スポーツ科学篇). 6(2), 21-27.
- 佐藤公子, 平松喜美子, 渡邊克俊. (2019). オーラル・フレイルの早期発見によるフレイル予防：口腔機能低下が地域在住高齢者の栄養状態に及ぼす影響の検討. 日本未病システム学会雑誌. 25 (3) , 11-19.
- 清野諭, 野藤悠. (2019). 地域における介護予防のエビデンス. 体力科学, 68(5), 327-335.
- 柴喜崇, 渡辺修一郎. (2014). 地域在住高齢者における加齢に伴う生活機能の変化およびその予防の考え方. 理学療法学. 41 (5) . 320-327.
- 重松良祐, 柳瀬仁, 南出光章. (2014). 認知機能低下を抑制する運動プログラム「スクエアステップ」のデイケア利用者への適用とその効果. 日本認知症ケア学会誌. 12(4), 703-714.
- 重松良祐. (2016). 転倒予防や認知機能向上のための運動プログラム"スクエアステップ" 日本運動疫学会プロジェクト研究"介入研究によるエビデンス提供". 運動疫学研究: Research in Exercise Epidemiology. 18(2), 105-112.
- 島田裕之. (2010). 高齢期の虚弱予防を考える. 理学療法探求. 13,1-6.
- 総務省統計局 (2020). 統計からみた我が国の高齢者. <https://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topics126.pdf>
- 鈴木隆雄. (2015). フレイル・サルコペニア・ロコモを知る・診る・治す：フレイルの臨床的・社会的意義を考える. 日老医誌. 52 (4) , 329-335.
- 谷本芳美, 渡辺美鈴, 杉浦裕美子, 林田一志, 草開俊之, 河野公一. (2013). 高齢者におけるサルコペニアに関連する要因の検討. 日本公衆衛生雑誌. 60 (11) , 683-690.
- 田治秀彦, 藤井智, 渡邊慎一, 長田深希. (2010). 予防給付プログラムを安全かつ効果的に行うための地域支援の一方法. リハビリテーション研究紀要. (19), 37-40.
- 高橋美砂子, 橋本由利子. (2011). 介護通所施設利用者における口腔機能低下予防体操の効果 介入プログラム終了後の利用者と職員への意識調査から. The Kitakanto Medical Journal. 61(4), 543-548.

- 戸井田千鶴, 太田ひろみ, 石井博之, 楠田美奈, 相原圭太. (2020). 地域在住高齢者の運動の開始・運動習慣維持に関わる要因について: ソーシャルサポートに焦点をあてて. 杏林医学会雑誌. 51 (2) . 79-91.
- 富田かをり, 石川健太郎, 新谷浩和, 関口晴子, 向井美恵. (2010). 高齢者における口腔機能向上プログラムの効果の経時的変化. 老年歯科医学. 25(1), 55-63.
- Tze Pin Ng, Liang Feng, Ma Shwe Zin Nyunt, Lei Feng, Mathew Niti, Boon Yeow Tan, Gribson Chan, Sue Anne Khoo, Sue Mei Chan, Philip Yap, Keng Bee Yap. (2015). Nutritional, Physical, Cognitive, and Combination Interventions and Frailty Reversal Among Older Adults: A Randomized Controlled Trial. The American journal of medicine .128 (11) , 1225-1236.
- 上村一貴, 山田実, 岡本啓. (2018). フレイル予防に向けたアクティブ・ラーニング型健康教育介入の効果: 高齢者を対象としたランダム化比較試験. 理学療法学. 45 (4) , 209-217.
- 植木章三. (2016). 自分ではかる、高齢者の体力測定の意義. 老年社会科学. 38(3), 364-369.
- 白倉京子, 入江多津子, 木村暢男, 永原久栄, 福屋靖子, 星野晴彦, 山本章. (2010). 高齢者の介護予防に必要な地域支援サービスに関する研究. リハビリテーション連携科学. 11 (1) , 21-29.
- 山上徹也, 藤田久美, 小岩井あさみ, 関口尚美, 鎗木早苗, 梅澤亜紀, 米田真一, 山口晴保. (2010). 地域における認知症発症・進行予防プログラムとしての脳活性化リハビリテーションの有効性. 老年精神医学雑誌. 21(8), 893-898.
- 山口智晴, 村井達彦, 牧陽子, 都丸知子, 松本博美, 佐藤歩, 桜井三容子, 山口晴保. (2013). 作業療法士が関与する高崎市認知機能低下予防事業の効果検証と事業委託. 総合リハビリテーション. 41(9), 849-855.
- 山崎幸子, 藺牟田洋美, 鈴木理恵子, 安村誠司. (2010). 閉じこもり高齢者に対する心理的介入プログラムの長期的効果 新規要介護発生および生命予後との関連. 応用老年学. 4(1), 31-39.
- 山崎幸子, 藤田幸司, 藺牟田洋美, 安村誠司. (2016). 外出に対する自己効力感を高める訪問型支援の効果 高齢者の閉じこもり改善に向けた試み. 応用老年学. 10(1), 27-36.

吉行紀子, 河野あゆみ. (2020). 要支援高齢者のフレイルと近隣住民ボランティアのソーシャル・キャピタルの関連. 日本公衆衛生雑誌. 67 (2) , 111-120.

Zhang Y, Xu XJ, Lian TY, Huang LF, Zeng JM, Liang DM, Yin MJ, Huang JX, Xiu LC, Yu ZW, Li YL, Mao C, Ni JD. (2020). Development of frailty subtypes and their associated risk factors among the community-dwelling elderly population. Aging (Albany NY). 12(2), 1128-1140.